

## これまでの審議を踏まえた検討の論点(案)

## 【これまでの主なご意見】

- ・ 通信制高校に入学する生徒たちの若年化や多様化が進んでおり、自学自習を前提とする制度自体に対応できていない。自学自習は実態としては非常に厳しく、組織的な学習のサポート体制が必要
- ・ 通信制高校において、自学自習ができるという前提で生徒に指導していくと成り立たない状況になっている。自学自習ができない生徒を何とか自学自習ができるような形にして卒業させていくのが実態
- ・ 自学自習ができない生徒に対して、どうやって伴走していくのが大切。教師の関わり方を変えていくというのも当然必要であるが、同時に外部の方と連携するような形で、生徒一人一人に合った伴走の仕方を考える必要があるのではないか。伴走が必要なキーワードではないか
- ・ 個別最適な学びに関して、中教審答申の中でもあったように、学校教育の基本的な機能として、学習機能だけではなく社会的機能、福祉的機能、セーフティネットとしての機能を学校は有しており、通信制高校においても多様な生徒がいる場合、そういった機能が非常に重要になってくる



## 【検討の論点①】

- ✓ 通信制高校に在籍する生徒が、制度創設当初の働きながら学ぶ生徒のみならず、特別の事情を有する生徒が数多く在籍している現在の実態を踏まえつつ、主体的・対話的で深い学びや、個別最適な学びと協働的な学びを実現するためには、通信制高校及び通信制高校の教師は、生徒の学習や高校生活全般においてどのような役割を担うことが必要と考えられるか。例えば、自学自習が困難な生徒に対して、学習面のみならず生活面も含めて担任の教師が伴走しながら生徒一人一人の状況をしっかりと見ていくことなどが求められているのではないか

**【これまでの主なご意見】**

- ・ オンライン学習、VR学習は安全安心な居場所からの学習機会の保障になる。ビデオや音声でのコミュニケーション以外にもVRを使った学びを実践している学校もあり、非常に特徴的なものである
- ・ ICTを有効に使っていくためにも、リアルな学びの場の在り方もきちんと考えていくべき。何が何でもICTを使うということでICTだけがクローズアップされるのはよくない。オンラインで抜け落ちている部分をいかにリアルできちんと補足してあげるのかということが重要
- ・ 対面・リアルでやるべきことは何なのか、ICTなどオンラインでできることは何なのか、教育の中でどのようにツールを使いながら役割分担して教育の質を上げていくのか、といったように教育の中でリアルとオンラインの目指すべきものを本質的に考える必要がある



**【検討の論点②】**

- ✓ 通信制高校の強みを更に生かすためにどのような方策が求められるのか。例えば、オンラインを活用した学びにおいては、リアルな学びの場の質向上を図りつつ更にオンラインを活用した学びが効果的なものとなるように、添削指導や面接指導においては、主体的・対話的で深い学びをより促すような指導となるように、さらに、生徒の自学自習に際しては、高等学校の教育として相応しい学習が実現できるように、それぞれ、どのような方策が必要と考えられるか

**【これまでの主なご意見】**

- ・ サテライト施設の教育環境について、単に設置基準に適合するかどうかだけではなく、どのような教育に取り組むためにこのサテライト施設では十分なのか不十分なのか、検討すべき
- ・ 私立の中にはサポート校が大切な位置づけになっている学校があり、サポート校・サポート施設をどれだけきちんと担保していくのか、その質をコントロールしていくのが大事



**【検討の論点③】**

- ✓ 通信制高校の学びを更に深化させるにあたって、サテライト施設(通信教育連携協力施設)においても実施校と同等の教育の質・教育環境を確保するためには、これまで以上にどのような方策が求められるか

**【これまでの主なご意見】**

- ・ 通信制高校の質確保・質保証について、学校評価システムをきちんと活用することによって、実施校、設置者自身が主体的な改善活動を回していく必要があり、そのための何らかの制度の導入が必要
- ・ 質保証のために第三者評価を行っていく、評価機関や評価人材の育成を図ることが大事
- ・ 所轄庁は、学校評価システムを活用して、各学校の実態把握を行い、必要な指導・助言等を与えていけばいいのではないか



**【検討の論点④】**

- ✓ 通信制高校においては、全日制・定時制と異なり日常的に登校するものではなく、とりわけ広域通信制高校においては所轄庁の圏域を超えて教育活動を展開しており、全日制・定時制の学校以上にPDCAサイクルを確立し、教育活動の主体的な改善を図っていくことが求められていることを踏まえ、第三者による評価・検証システムを確立し、開かれた学校づくりを進めていくために、どのような方策が求められているのか

**【これまでの主なご意見】**

- ・ 通信制として 74 単位以上の単位修得をさせるだけではなく、人間性の涵養など成長を促す教育を推進するためには、全日制とほぼ同程度の教職員の配置や施設設備の整備が必要ではないか
- ・ 通信制高校に対する指導監督と全日制・定時制高校に対する指導監督に違いがあるのか。疑似的にサテライト施設が所在する都道府県に事務を委託できるようにするためにはどのようにすべきか
- ・ 各所轄庁が所管の通信制高校に対して実施している調査の法的根拠の在り方を検討し、調査による指摘を踏まえた各学校の改善の実現を図っていくべき



**【検討の論点⑤】**

- ✓ 近年、広域通信制高校の設置が増加する一方で、不適切な学校運営が後を絶たない中、所轄庁において、通信制高校の設置認可や通信制高校に対する日常的な指導監督(サテライト施設に対する指導監督を含む。)の在り方として、教育の質の確保と地方分権の観点等を踏まえつつ、今後どのような改善を進めていくことが必要か。また、サテライト施設が所在する都道府県の在り様や、国が果たすべき役割はどのようなものか

**【これまでの主なご意見】**

- ・ 夢のあるような教育が通信制で花開くのだとすると、本当に制度的なハードルを打破しなければ実現しない話なのか、現行制度でもそれぞれの設置者において実現可能な話なのかは仕分ける必要がある
- ・ EdTech や仮想空間での学びなどに対するハードルについて、制度の問題なのか運用の問題なのか整理することが必要
- ・ 個別最適化された学びに対応するためにはきめ細かい対応が必要となり、通信制高校に配置される教師の数や教師・専門家の種類について、法令面に手を付けざるを得ないと考える
- ・ 通信制高校の質というものをどのように定義するのか、共通理解を持つことが大事。その際、学習の成果・教育の成果のみならず、諸条件の整備といったインプットの整備や、教師による教育のプロセス、生徒側の学習のプロセスをもとにした質の定義を考えていく必要がある
- ・ 国の経費で学校を選んで実証的な研究を行い、通信制高校における特色ある学びを意図的につくっていく制度があっても良いのではないかと



**【検討の論点⑥】**

- ✓ 全ての通信制高校に関する基準として求められる制度改正として、どのようなものが考えられるか。また、今後取り組むべき実証的な研究として、どのようなものが考えられるか